

はじめに

より良い健康状態を保つことは、高齢者にとりそれ自体が生活の目標であるとともに、健康状態は生活への適応や満足感等を強く規定する要因ともなっている。居住者の健康に居住環境の影響が大きいことは知られているが、特に強い影響をこうむる高齢者についてはまだ明らかにされていない。

本研究では健康状態を、身体的、精神的、社会的側面より多角的にとらえ、他方、高齢者の居住環境を構成する要因として、建築面、運営方針や自立援助サービス面、居住者や職員など人間的条件等多面的にとらえた。居住者の健康と居住環境条件の関連性について、異なる環境条件下に生活する高齢者の横断面的分析および、同一対象者の居住環境が変化する前後を追跡調査する縦断面的分析により、本研究では検討を行った。

第1章では、高齢者向けサービス付き住宅と地域の民間賃貸住宅を取り上げ、居住者の建築環境へのクレーム、社会的活動性、心身健康状態の比較を行い、居住形態の影響を検討した。

第2章では、ネガティブな影響を与えるといわれているが十分解明されていない高齢者の転居について、高齢者住宅への転居前後を捉え、その影響を建築クレーム、社会的活動性、心身健康の側面より検討した。その結果、転居により居住環境条件は大きく改善され、心配されるような心身適応面、社会的適応面にネガティブな影響はみられないことが明かとなった。

第3章では、居住環境と心身ストレスの関連性をさらに明らかにするために、環境への直接的反応である建築クレームと心身ストレス得点の関連性の分析を行い、心身ストレスの程度が環境への反応を左右することを示した。

これらを踏まえて、高齢者により良い心身健康をもたらす高齢者住宅の建築条件とサービス条件についても言及した。

児玉 昌久（早稲田大学人間科学部教授）

児玉 桂子（日本社会事業大学社会福祉学部教授）

星野聡子（日本社会事業大学社会事業研究所研究員）